

高遠中学校だより 『高遠の子』

2024. 3. 4

No. 9

高遠中学校だよりはホームページでもご覧になれます。

<http://www.ina-ngn.ed.jp/~takatyu/>



伊那市立高遠中学校
校長 田中

いざ出陣、後期選抜まであと1日。平常心でいこう！

2月14日の校長講話の後、達磨の目入れ式を行いました。各学級長が代表して一筆一筆心を込めて左目に墨を入れていきました。今年一年の健康や安全、そして大願成就を祈念しました。今後、生徒や教職員それぞれが、各自の目標を達成したら右目を入れていきます。

その翌日、さっそくいくつかの墨が右目に入れられていました。この3学期の終わりには、生徒玄関に置かれた達磨さんの右目が大きく開かれているといいなと思います。



さて、3年生の受験(受検)も大詰めとなりました。そして明後日水曜日は公立高校の後期選抜となります。多くの生徒が天王山を迎えます。これまで努力してきたことを全て出し切ってきてほしいと願います。

ところで、「受験は団体戦である」とよく言われます。本校でも3年生がそれぞれの立場で仲間同士を気遣ったり支え合ったりする姿がたくさん見られています。例えば、すでに合格を内定した生徒が、学年やクラスの仕事を買って出て、仲間のために進んで活動しています。

さらに、こんな生徒もいました。一足早く受検に臨んだAさんが、校長室に3回も挨拶に来てくれました。1回目は面接試験のあった翌日。「校長先生、昨日無事に面接を終えました。練習してくださったお陰でなんとか質問に答えることができました」と。2回目は合格発表のあった日。「校長先生、無事合格できました!本当にありがとうございました。(なぜかささやくような小声で)」私が「おめでとう!だけど、嬉しいはずなのにどうしてそんなに声が小さいの?」と聞くと、「担任のK先生から“友達はこちらから受検するんだから、みんなの前ではあまり喜び過ぎないようにね”と言われたからです」となるほど!

そして、3回目はさらにその翌日。「校長先生、本当にお世話になりました。お陰様で合格することができました。(昨日よりさらに丁寧な言葉遣いで)」と。私は3回も挨拶に来たAさんに驚くとともに、もしかしたら昨晚、Aさんのご家族が「明日学校に行ったら先生たちやお世話になった友達にしっかりとお礼を言うてくるんだよ」と言ってくださったのではないかなと思いました。(きっとそうだろう)

私たちは(私は)、何か物事を始めようとする時には「よろしくお願ひします」「お世話になります」などはよく言うのですが、その事が終わった後に「ありがとうございました」とか「お陰様でした」などと言っているかといえばそうでない場合が多い気がします。Aさんの姿から、1つの結果だけに一喜一憂せず、その前後の姿を大事にしていくことがより良い人間関係を築いていくために大切なんだなあと思えてもらった気がします。3年生のこの受験は、また人として大きく成長できるチャンスでもあります。受験に臨むみなさん、明後日は平常心で臨んできてください! みんなで応援しています。

能登半島地震災害義援金募金へのご協力に感謝！

ご厚意の総額6万2807円を日本赤十字社を通して被災地へお送りしました。

1月15日から2月8日までの3週間、本校生徒会、PTA、教職員の三者合同で能登半島地震災害義援金の募金活動を行いました。1月9日の三学期始業式の校長の話の中で、「私たちにできることは何だろうか？」と全校に投げかけたところ、すぐに生徒や先生たちから、「まず募金を！」との声があがり、永井PTA会長さんをはじめとするPTAの方々にも賛同いただいたことでこの活動が始まりました。



開始1日目から、事務室前に設置された募金箱にはたくさんの義援金が集まりました。生徒の中には、自分の財布から大事そうにお小遣いを取り出して募金箱に入れる姿もありました。きっと、この震災の状況を見て「何かしなければ」と心に感じた思いを行動に表したのだと思います。

最終日だった2月8日授業参観日には、来校された保護者の方々が次々に募金をしてくださいました。募金総額の6万2807円は日本赤十字社の当該口座へ振り込みをさせていただきました。今後も「自分たちにできること」をそれぞれが考え、行動に移していけたらと思っています。たくさんのご協力に感謝申し上げます。(高遠中学校 PTA会長 永井、生徒会長 原、校長 田中)

吹奏楽部 打楽器4重奏チームが大快挙！ アンコン県大会「金賞」そして、東海大会出場



1月20日(土)に松本市キッセイ文化ホールで開催された第49回長野県アンサンブルコンテスト中学生の部長野県大会において、南信ブロック代表として出場した本校の打楽器四重奏チームが「金賞」を受賞。長野県代表の5チームにも選出され、2月10日(土)に愛知県で開催された東海大会へ出場を果たしました。本校吹奏楽部の東海大会出場は初めてのことであり快挙です！

県大会当日のステージでは4名(2年原優葵乃さん、2年青山絢音さん、1年小池湊斗さん、1年小濱月さん)がこれまで以上に落ち着いて自分たちの音楽を心を込めて表現する姿がありました。また南信ブロック大会同様、部員全員で楽器運搬や準備・片付けなど気持ちを合わせて協力する姿も素晴らしかったです。そして、東海大会直前の2月4日(日)には、高遠町公民館長及び本校同窓会長の矢澤 淳さんが「地域のみんなで生徒たちの活躍を応援したい」と急遽、激励演奏会の

機会をくださいました。演奏会当日は、雪が積もった中にも関わらず地域の方々が70名以上お越しくださいました。そして、大きな激励の拍手とともにカンパまでしていただきました。

2月10日(土)、愛知県幸田町で開催された東海大会では、各県からの代表チームそれぞれがレベルの高い演奏を披露しました。その中で本校の打楽器チームは「銅賞」を受賞しました。惜しくも全国大会出場は叶いませんでしたが、この経験は今後の大きな力となるはずで、そして、これだけ多くの地域の方々が本校の生徒たちをいつも温かくお支えいただいていることを、生徒たちとともに教職員も実感しました。今後とも、生徒たちが夢や目標に向かって努力する姿をぜひ楽しみにしてください。ありがとうございました。(次の URL から1月 21日付「朝日新聞」記事が見られます。⇒ https://digital.asahi.com/articles/ASS1N73MBS1LUO0B00M.html?iref=pc_ss_date_article)

2/14 校長講話から

今日はバレンタインデーでしたね。給食で出たブラウニーは美味しかったですね。しかし、1, 2年生は期末テストの日でもありました。なぜ、こんな日に?と思った人も多いかと思いますが・・・(笑)。さて、そんな今朝、かつてH中学校で私のクラスだったKさんからメールが来ました。「先生、バレンタインデーだからチョコをちょこっとくださいね!」(かわいいお子さんの写真も添付されていた)と。何てふざけたメールだと思いつつもこれがKさんらしいところです。実は、このKさんについて忘れられない出来事があります。

Kさんは中学2年進級時のクラス替えで私のクラスになりました。当時は、「なんで田中(呼び捨て)のクラスになったんだ。最低〜!」と大声で友達に伝えていました。私との関係も最悪で、いつも避けるような姿でした。そんな彼女が、中学3年生になった最初の学級会で次のように宣言しました。「頼りにならない田中先生と級長になったT君のために私が副級長をやります!」と。彼女は見事に副級長に選ばれ、その宣言どおりその後も頼もしくクラスを引っ張っていきました。

受験シーズンとなった12月、希望者による朝学習が毎朝7:30から会議室で始まりました。Kさんは毎朝必ず朝学習に参加しました。そして、3学期に入り、彼女は前期選抜を受験して見事合格しました。その翌日に提出された彼女の生活帳には次のような一文が書かれていました。

「私は私のできることを毎日していきたいと思います。」

そして、凄かったのはその日からの彼女の姿でした。Kさんは高校を合格しても朝学習に参加し続けたのでした。しかも、朝一番乗りして会議室のストーブを付け、朝学習に参加する他の仲間が温かく学習できるようにしてくれたのです。このことは後期選抜の前日までずっと続きました。

卒業後、Kさんの結婚式に呼ばれスピーチを頼まれたので、私はこの当時のエピソードを話しました。彼女は雛壇からいつもの調子で「先生、やめてよ!」と笑顔で言い返してきましたが。



さて、話は変わります。東海大会を終えた吹奏楽の4人が校長室に挨拶に来てくれました。チームリーダーの原さんは、「本当に悔しい思いもありますが、こんな経験は今後できないかもしれないので、この経験や悔しさを生かしてまた練習を頑張っていきたいと思います」と力強い挨拶をしてくれました。

次に、この写真は3年前の箱根駅伝で花の五区の山登りを任された東海大の宮下主将が、走り終えてきた道路に向かって深々と一礼している姿です。2年前に5区の区間記録を出した後、怪我などでなかなか記録が伸びない中、4年生で主将となり再度5区を任されました。しかし結果は自己記録には届きませんでした。レース後のインタビューでこの一礼の意味を聞かれた彼は次のように答えました。「あの一礼は、監督に対しての感謝、5区というコースに対

しての感謝、コロナ禍の大変な中ご尽力いただいた方々への感謝、また往路のゴールということもあるので、チームを代表してしっかりと感謝を伝えようという意味で礼をしました」と。

さらに、この写真はもうお分かりですね。昨年10月に藤井聡太さんが永瀬さんから王座を奪取し八冠となった瞬間の姿です。藤井さんは敗者となった永瀬さんよりもさらに深く頭を下げて礼をされました。そして、その後のインタビューでは「まずは実力をつけることです。他の方の将棋を見ていて勉強になることがすごく多いです。今後も学んでいけたらと思っています」と答えています。これほど強くなっても、全くおごることのない藤井さんという人はやはり凄いですね。

最後の写真です。2年前のサッカーワールドカップでベスト8をかけたクロアチア戦で残念ながらPK戦で敗れた日本選手が使ったロッカールームの様子とゴミ拾いをしてから会場を去るサポーターたちの姿です。

ここまでの話から、みなさんは私を何を伝えたいかがわかりましたね。今紹介したどの人たちも、どんな結果になったにせよ、終わった後の姿を大切にしているということです。最後の一点まで大切にするという意味で「画竜点睛」という故事成語があるのは知っていますね。また、日本ではよく「有終の美を飾る」「残心」「終わりを慎む」という言葉で表されることがあります。英語では、“A good ending leads a good beginning!”（よい終わりはよい始まりを導く）などがあります。

物事が
終わったあとの姿

大切さ 美しさ 凄さ

残心 終わりを慎む

まわりの信頼を生む!

3学期も残り1か月半になりました。3年生は義務教育の卒業に向かって、2年生は最上級学年へと、そして1年生は新入生を迎える時期になってきました。終わりを大切にする姿こそが次のよい始まりに必ず繋がっていくはずです。それぞれが、これまでのことにきちんと区切りをつけるよう取り組んでいきましょう。「有終の美」を飾りましょう。以上で私の話を終わります。

◆寄付として電子ピアノ2台をいただきました



「生徒の皆さんの学校生活にぜひ役立ててください!」と高遠町長藤にお住まいの横田雅志様からご寄付を頂戴し、立派な電子ピアノを2台購入させていただきました。実は横田様のお父様である横田稚様が生前本校にお勤めされていた経緯もありこの度寄付をしていただけになったそうです。生徒会長の原さんからは、「いただいた電子ピアノをこれからの学習でしっかりと使わせていただきます。本当にありがとうございました。」とお礼を伝えさせていただきました。

昨年末にも、昭和50年度本校卒業生(代表幹事 柳澤秀一様)の皆様からご寄付を頂戴したところです。このように、高遠中学校の教育活動や生徒たちを温かく見守り支えてくださっている方々の思いやお支え、そして期待をしっかりと感じ、全校生徒、教職員でまた学校生活、教育活動に励んでいこうと思います。

◆連絡・お知らせ

3学期の登校日も残り10日となりました。その間、後期選抜、生徒総会、同窓会入会式、惜別の会、終業式、そして卒業式と行事等が続くなかで年度末を迎えます。生徒たちにとって健康・安全で充実した10日間となるよう、教職員一同尽力して参りますので、ご協力をお願いいたします。